

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 016	提案機関名 (一社) 神奈川県園芸協会 (県果樹組合連合会)
要望問題 カキの汚損果の原因と対策	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模 (面積、数量等) 】 カキの汚損果は、表面に黒く斑点状の汚れ (シミ) が見られ、外観品質を損ねている。品種による発生程度やその原因及び対策について研究を進めてほしい。また他県のデータや対策などの情報提供をあわせてお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産技術部果樹花き研究課
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	カキの汚損果については、(国研)果樹茶業研究部門の分類で「破線状汚損」、「雲形状汚損」、「黒点状汚損」に分けられています。農業技術体系4「カキ」基本技術編215ページ以降に、品種と汚損程度、原因と対策がまとめられています。「次郎」はいずれの汚損も発生中程度、「松本早生富有」は発生が少ないとされており、最近の品種では「甘秋」で雲形状汚損が多くなっています。汚損果発生の原因は、寡日照、多湿、露などによる長時間の水滴付着、一部の農薬の付着等が指摘されています。対策として、園内環境整備 (防風樹刈込み、密植園間伐、除草徹底など)、摘果や摘葉により葉や隣接果実への接触を避けるなどの管理を行うことで、発生を抑えることができます。また、最近の品種の汚損果発生程度については不明な点もあり、今後、情報を収集し、必要に応じて情報提供を行っていきます。		
解決予定年限	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考			